

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 西沢淳男	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 昨年度の中核となる仕事は、一昨年度から引き続き東京大学史料編纂所に所蔵されている「代官竹垣直道日記」の翻刻作業である。日記は古代・中世史研究においてはよく利用されるものであるが、近世史研究においても近年利用が活発になってきている。日記には公務は勿論、その時代の生活・文化・風俗や各種通達の写しなど多岐にわたっており、史料翻刻は学会の共有財産として広く活用されていくべきものとして、翻刻の掲載と公開をはじめた。日記は文字が難解な上に紙幅の都合で、学内学会機関誌に半年分(1冊)の翻刻を発表した。 次に、昨年度から江戸時代の幕領支配をおこなった代官約1300名収録の初の本格的な人名辞典として『徳川幕府 全代官人名辞典』(東京堂出版)を、編著者として編集・執筆作業をおこなった。全国の研究者約30名を動員し、26年度末に出版された。多くの代官について史料が少ない中で、新史料の発掘をおこない、現時点での最高水準のものとなった。 地域貢献として、県外において茨城県取手市埋蔵文化財センター開館15周年記念・企画展「大地を切り拓いた人々」に協力し、「代官伊奈忠治と伊奈氏代々」と題して記念講演をおこない、当該地域における代官伊奈家の果たした役割や幕府における位置付けについて説明した。 歴史的資産を活用した地域活性化の取り組みをおこなっている長野県飯島町において地域史ゼミ合宿を実施した。飯島町では、2018年の伊那県誕生150年に向けた「伊那県150年祭」について、一般住民にふるさとの歴史を知ってもらうため、また町外・県外からの誘客を図るためのイベント内容を、地元住民とゼミ生、教育委員会職員、教員がワールドカフェ方式でワークショップし、討議・提案し、教育委員会の内容検討の端緒とした。 社会貢献として、埼玉県川口市の文化財保護審議会委員及び川口市遺跡調査会理事として、市の文化財保護行政について助言・指導をし、埋蔵文化財調査について指導・監督した。	
2 その他の事項	
3 次年度以降の計画・抱負 昨年度出版した『徳川幕府 全代官人名辞典』(東京堂出版)をもとに、以前発表した「幕領代官・陣屋データベース」の照合・訂正及び充実をし、改訂版の公開に向けて作業を進めていく。 また、全国各地で顕彰されている代官が、戦前における愛郷心の養成を担った郷土史のまま、英雄史観・物語史観にもとづいた偉人として地域に浸透し、観光案内や教育委員会配布の副読本や史跡の案内板にまで影響し、学校教育の地域学習(郷土学習)において俗説が史実と混同され子供たちに誤った歴史・人物像が教えられている例が多いことから、その事例収集と背景について調査をしていく。	